

# 第73話「老化社会」

in the shade of family tree

## 木陰の物語



田 士郎

社会が老化していると思う。



人口比率で高齢者が  
増えているのはその通りだ。



しかしそれと社会が老化するのは  
同じではない。



例えば、  
少年にまつわる事件が起きる。



少年同士が命を間に  
加害者 被害者になってしまう。

そんな出来事と向き合う  
世論の老化が気になって  
仕方がない。



起きてしまった事件は  
容認できることではない。



しかしこんなことは  
最近のことではないし、  
増えたわけではない。



だん しろ う 児童相談所等の心理職25年を経て独立し、仕事場D・A・Nを主宰。立命館大学大学院教授。面接、教育、対人援助職者ワークショップ、そして漫画家・執筆者としての発信すべてを、「家族心理臨床」をベースに展開している。

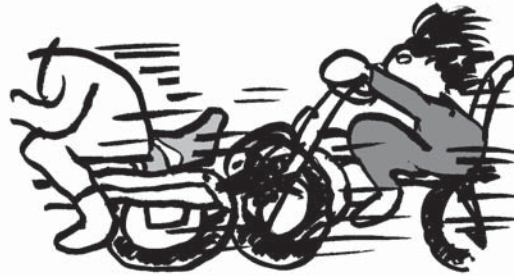
昔、世界的に大ヒットした  
ミュージカル映画  
「ウエストサイド物語」



あれはNYの  
不良グループ間の  
恋愛を巡る殺人の顛末だ。



それにもかかわらず  
暴走に暴力に、  
時には最悪の結果も  
社会は引き受けてきた。



昔から若者は  
そんなことくらいで…  
と思うような経緯で  
命のやりとりをしてきた。



大人はそれを戒めてきた。

学校の非行グループが  
受験も迫った年末、



盗んだ車で市電の停留所の  
標識に突っ込んだ。



同級生のYは即死だった。

学校は騒然となった。



でも、受験渦中のわれわれの心のケアをなんて発想はなかった。



合否結果の他校比較も例年と変わりはない。そつうものだった。



大学時代は、学園闘争のまっただ中。



路面電車の前で  
火炎瓶が破裂していた。



機動隊は放水や  
催涙弾で応戦していた。



社会は何も起こさない  
若者を育てたかったのではない。



大人の与えた玩具で  
おとなしく遊んでいる  
次世代を求めた  
わけではないだろう。



と書いて、オヤオヤと思う。





RPGやポケモンGOに  
大人も子どもも夢中。



ながらスマホで、  
線路に落ちたり、  
ゲームに夢中で  
車ではねたり、  
時には命まで落とす。



これが昔と同じ事だろうか？  
同じ扱いでいいだろうか？



若さの一面は無軌道さである。  
(いささか古くさい言い草だが)



だからたどり着ける地点もある。



歳を取ると  
そんなエネルギーは出てこない。



高齢者が多くなった  
社会が願う安心や安全は  
そついつ意味でやはり危しい。



そんなことでは、  
今の時代に通用しない  
「事なかれ社会」しか、  
作りだせないのでは  
ないかと思ったりする。

